市谷加賀町二丁目遺跡の縄文人骨

縄文人骨の発見

新宿区内において、縄文時代の遺跡は台地上を中心に 60 ヶ所以上見つかっています。中でも、市谷加賀町二丁目遺跡では平成 24 年（2012）に縄文時代の人骨が発見され、注目を集めました。遺跡は火山灰起源である関東ローム層の酸性土壌にあるため、通常骨は 100 ～ 200 年で溶けて残らないはずが、この時の調査（6 次調査）では、計 16 体（縄文時代中期 4 体、後期 10 体、時期不明 2 体）の人骨が確認され、縄文時代の葬法などを知る上で貴重な事例であることが明らかになりました。

様々な葬法

6 次調査で検出された埋葬遺構は、縄文時代後期（約 4,000 年前）の土坑墓と、中期（約 5,000 年前）の廃屋墓と集骨でした。土坑墓とは、地面に穴を掘って遺体を納めた墓で、出土した人骨の多くは頭を東に向け、仰向けに手足を伸ばした状態で埋葬されていました（仰臥伸展葬）。廃屋墓は竪穴住居を墓に転用したものです。

伸展葬

屈葬

集骨

縄文人の人物像

縄文時代中期の廃屋墓から検出された 12 号人骨は残りが良く、推定身長 161 ㎝、40 歳代の男性であることがわかりました。頭蓋骨に陥没骨折と治癒した痕跡があり、前歯と奥歯が激しく磨り減っていることから、歯を道具として使用していたことも推測できます。頭骨の残りが良かったことから、生前の顔を復元する「復顔」も行われました（復顔像を展示中）。頭骨を繋ぎ合わせて修復し、そのレプリカに解剖学上の統計データを基準に筋肉や皮膚を粘土で復元していく作業を経て完成したものです。

様々な科学分析も行われ、ミトコンドリアＤＮＡの分析によると、母系の祖先はシベリア南部・バイカル湖周辺にそのルーツが求められ、炭素・窒素同位体比による食性分析では、亡くなる前の約 10 年間は、イノシシ、イモ、ドングリなどの陸上の動植物だけでなく、海洋あるいは湖沼の水産物もあわせて摂取していることが判明しました。

その他、この人骨が装着していたと考えられるイルカの下顎骨の腰飾は、他の遺跡の事例によれば 1 つの遺跡から 1 点程度しか出土しない稀少品であり、集落のリーダー的な人物だった可能性も示唆されます。

12号人骨出土状況

本遺跡の発掘調査報告書は 2 階の閲覧室でご覧いただけます。

加藤建設株式会社文化財調査部『市谷加賀町二丁目遺跡　6【縄文時代遺構編】』2014 年
新宿区地域文化部文化観光課文化資源係『市谷加賀町二丁目遺跡　6【埋葬遺構編】』2014 年